

大阪大学機関リポジトリのイメージキャラクター OUKAちゃん

(機関リポジトリについては2-3頁参照)



目次

特集 オープンアクセス	P.1-3
前払いPPVサービスについて	P.4
地震災害復旧工事終了	P.4
箕面新図書館について	P.5
LS FORUM	P.6-7
NEWS	P.8

オープンアクセスのロゴ



このロゴはオープンアクセス出版社であるPLOS(Public Library of Science)がデザインしたものです。

インターネットを通じて誰もが無料で閲覧可能な状態であることを、鍵が開いているイメージで示しています。

特集 オープンアクセス

最近「オープンアクセス」という言葉を聞く機会が増えてきたのではないのでしょうか。オープンアクセスとは、研究成果をインターネット上で公開することで、世界の人々が無料でアクセスできるようにすることを指します。

この記事では、その歴史と最近のトピックを簡単にご紹介します。

オープンアクセスの背景

オープンアクセスが広まるようになった背景には、1980年代末から現在もなお続く学術雑誌の価格高騰という問題があります。図書館は購入タイトル数を削減せざるを得ず、購読機関を減らした学術雑誌はさらに価格を上昇させるという負のスパイラルが発生していました。

そこで、1998年に米国研究図書館協会(ARL)はSPARC(Scholarly Publishing and Academic Resources Coalition)を発足し、学術情報流通の主導権を学術コミュニティに取り戻すための運動を展開しました。

当時普及期にあったインターネットも、オープンアクセス運動の展開に大きな影響を与えました。時間とコストをかけることなく、研究者自身が相互に論文を共有する

ことが技術上可能になったのです。1991年には物理学分野の研究者によってプレプリントサーバ(のちのarXiv)が立ち上げられました。

さらに、近年は「納税者への説明責任」、つまり公的資金(税金)が充当された研究成果は広く人々に公開すべきという意識の広まりや、多分野の協調による新しい産業の創出をめざすオープンイノベーションの理念の出現が、オープンアクセスの推進を後押しすることとなります。

SPARC*

<https://sparcopen.org/>

- 研究者による学術雑誌出版の電子化支援を通して、価格高騰の問題を解決しようとする取り組み
- SPARC Japan

<https://www.nii.ac.jp/sparc/>

機関リポジトリ Institutional Repository

大学や研究機関が、その構成員の研究・教育活動の成果を保管・公開するために設置する電子アーカイブです。全世界で4,000以上のリポジトリが存在し、国内でも約800の機関がリポジトリを構築しています。

※下記Webサイトより調査
(2019年12月24日現在)

OpenDOAR

<https://v2.sherpa.ac.uk/>

opendoar/

NII機関リポジトリ統計

<https://www.nii.ac.jp/irp/archive/statistic/>

機関リポジトリ・ OUKAの運営①

大阪大学学術情報庫 OU-KA (Osaka University Knowledge Archive) は大阪大学の機関リポジトリです。

2007年のサービス開始以来、オープンアクセスの理念にもとづき学内の研究・教育活動から生み出される学術成果(学術雑誌論文、博士論文、紀要論文、会議発表資料、研究報告書など)を電子的に保管・公開しています。

OUKA上のコンテンツは誰でも無償で閲覧できます。また、本学に所属する教職員や大学院生は研究成果を公開することができます。

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>



オープンアクセスの発展

1990年代末から2000年代初頭にかけて、BioMed Centralをはじめとするオープンアクセス出版社の設立、PLOS (Public Library of Science, 旧略称 PLoS) の発足と出版事業への参入、オープンアクセス誌の刊行といった動きが拡大しました。2002年にはブダペスト・オープンアクセス・イニシアティブ (BOAI: Budapest Open Access Initiative) によってブダペスト宣言が発表され、ここではじめてオープンアクセスの概念が明確に定義されました。

また、このころから機関リポジトリが世界的に普及していきます。

2004年には大手商業出版社も動きを見せ、Springerがオープンアクセスオプション(投稿時に後述のAPCを支払うことで論文を無料公開とするオプション)の提供を開始します。ElsevierやWileyといった他の出版社もこれに続く形でオープンアクセス誌の刊行やオープンアクセスオプションの提供に乗り出しました。

近年の動向

オープンアクセスの理念は今や世界的な展開を見せており、2013年のG8科学大臣会合で発表された共同声明では、公的助成を受けた研究成果へのアクセス向上の重要性が示されました。

また、個々の国や大学、研究機関、助成機関においても、オープンアクセス方針を策定し、組織としてオープンアクセス推進の意向を示すことが増えています。

さらに、高エネルギー物理分野のオープンアクセスプロジェクト(SCOAP³)や、学術雑誌のオープンアクセスへの転換を目的とするイニシアティブ(OA2020)など、出版社に対して研究者コミュニティや学術機関からオープンアクセス化を呼びかける取り組みも行われています。

日本におけるオープンアクセス

2002年	科学技術・学術審議会「学術情報の流通基盤の充実について(審議のまとめ)」 →今後の方策として学術情報の発信体制の整備、特に大学においては図書館が中心となった情報発信体制の確立を提唱。
2011年	第4期科学技術基本計画 →国として研究教育成果のオープンアクセス化を推進する方針を示す。
2013年	学位規則改正(博士論文を印刷公表→インターネットの利用による公表に)
2016年	第5期科学技術基本計画 →オープンイノベーションの構成要素としてオープンアクセスを取り上げる。また公的資金による研究成果の利活用を可能な限り拡大することを国の基本姿勢として提示。
2017年	科学技術振興機構「オープンサイエンス促進に向けた研究成果の取扱いに関するJSTの基本方針」 →全ての研究成果論文を原則としてオープンアクセスの対象にする。
	日本学術振興会「独立行政法人日本学術振興会の事業における論文のオープンアクセス化に関する実施方針」 →助成の対象となった論文が原則としてオープンアクセスとなるよう取り組む。

国を挙げて研究成果のオープン化が推進される中、大学図書館では国立情報学研究所と協力しながら現場レベルでの取り組みを展開しています。

必ずしも「オープンアクセス」＝「APC」ではない

先述のブダペスト宣言においては、論文をオープンアクセスにする方法として「グリーン」と「ゴールド」の2つが挙げられています。

「グリーン」は論文の著者最終稿またはプレプリントを著者本人が自身のWebサイトやリポジトリにおいて公開する方法（セルフアーカイブ）です。海外の大手出版社の多くが論文著者によるセルフアーカイブに関するポリシーを公表し、公開猶予期間や出典明記といった条件を定めています。

一方、「ゴールド」は、出版される論文自体を誰もが無料で読めるようにする方法です。例えば一つの方法として、オープンアクセス誌への投稿が挙げられます。現在では多くのオープンアクセス誌が刊行され、Scopus収録誌だけでも5,000タイトル以上が存在します。（※2019年12月24日確認）

こうした雑誌の出版にかかるコストは、論文の投稿者が出版社に支払うAPC（Article Processing Charge：論文出版加工料）で賄われるケースが多くなっています。

また、非オープンの購読誌の中にも、有料でオープンアクセスオプションを選択できるもの（ハイブリッドジャーナル）があります。

	ゴールドオープンアクセス	グリーンオープンアクセス
論文が公開される場所	出版者のwebサイト（通常の論文と同様）	著者のホームページ、リポジトリ等
出版者への支払いの有無	ほとんどの場合、あり	なし
注意点	投稿料の取得のみを目的とする悪質な雑誌に注意する必要がある	著作権の取り扱いに注意する必要がある

オープンアクセス誌の中には質に問題があるものも

現在話題になっている悪質な学術誌（いわゆるハゲタカジャーナル）は、このゴールドオープンアクセスの仕組みを悪用し、適切な査読を行わずAPCの取得だけを目的に刊行されるものです。

論文の投稿先を選ぶ際には、ジャーナルの質を十分に評価・検討してください。

附属図書館のWebサイトでは、投稿先学術雑誌の評価方法をご紹介します。

<https://www.library.osaka-u.ac.jp/evaluation/>

経営企画オフィス研究支援部門・研究推進本部とのセミナー共催

附属図書館は、経営企画オフィス研究支援部門・研究推進本部と共同で、研究支援のための活動を継続的に行っています。その一環として、2020年1月24日（金）にセミナー「学術論文発表を取り巻く最新動向：オープンアクセスの現在」を共催しました。

国立情報学研究所の船守氏と同志社大学の佐藤氏に、APCを必要とするオープンアクセス誌やハイブリッドジャーナルの広がり、いわゆるハゲタカジャーナルの出現など、オープンアクセスの展開が研究活動に与える影響について解説いただきました。当日は、学内外より97名の方にご参加いただきました。



セミナーの様子

学術情報整備室 電子コンテンツ担当

機関リポジトリ・OUKAの運営②

■OUKAの現況

- ・総コンテンツ数
：約 6.6万件
- ・年間アクセス数
：約300万件
- ・学内紀要・関連学会誌のタイトル数：約100件
※数字は全て2018年度の実績です。



■リポジトリ担当職員からのお知らせ

オープンアクセスやリポジトリに関するトピックを掲載したOUKA News Letterを不定期で刊行しています。

バックナンバーはOUKAにて公開中です。

ぜひご覧ください。



参考文献

尾城孝一、杉田茂樹、木下直、松本侑子、石田唯、井上知永理、大原司、横井慶子、オープンアクセスハンドブック 第2版、東京大学附属図書館、2017、60p. <http://hdl.handle.net/2261/72694> (CC-BY-SA)、(参照 2019-12-24)。

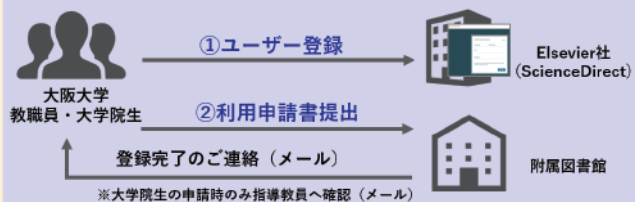
林和弘、"新しい局面を迎えたオープンアクセス政策：なぜ今議論が必要か"、日本学術会議主催学術フォーラム:世界のオープンアクセス政策と日本、東京、2014-03-13、日本学術会議、2014. <https://www.slideshare.net/KazuhiroHayashi/3-32290249>, (参照 2019-12-24)。

Foreign & Commonwealth Office, "G8 Science Ministers Statement", GOV.UK, 2013-06-13. <https://www.gov.uk/government/news/g8-science-ministers-statement>, (accessed 2019-12-24)。

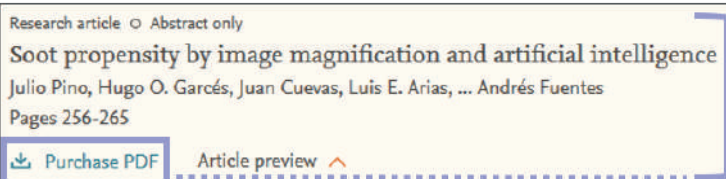
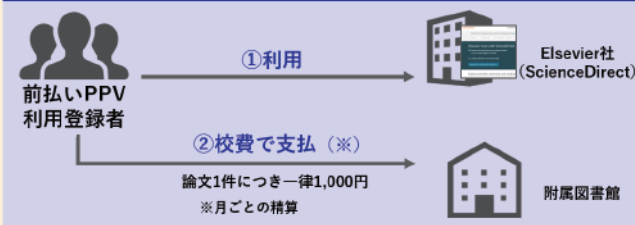
Elsevier社ScienceDirect上の論文が安価に入手できる「前払いPPV」サービス

大阪大学が契約していないElsevier社の電子ジャーナルの論文を購入する際に、附属図書館が提供する「Elsevier社電子ジャーナル等の前払いPPV（Pay Per View）サービス」をご利用いただきますと、論文1点につき一律1,000円で入手できます。なお、サービスのご利用には事前登録が必要です。

利用登録手続きの流れ



利用と支払の流れ



■利用できる方

大阪大学の大学院生・教職員 ※公費払いが可能な方

■注意事項

- 本学が利用できる件数には限りがあります。上限に達した段階で図書館Webサイトにてお知らせいたします。
- 利用内容の明細や納品書・請求書を図書館から発行することはできません。
- 利用料金は月ごとに精算いたします。翌月の15日までに、図書館から予算執行振替の手続きを行います。その他詳細につきましては図書館Webサイトをご覧ください。

<https://www.library.osaka-u.ac.jp/ppv/>



■問い合わせ先

登録・利用方法について
renraku_ppv@library.osaka-u.ac.jp
電子コンテンツ担当

予算・支払方法について
tosyo-kikaku-kaikei@office.osaka-u.ac.jp
会係

大阪大学が契約していない電子ジャーナル等の論文（Elsevier社ScienceDirect上で「Purchase PDF」と表示されるもの）が、安価（論文1点につき一律1,000円）に入手できるようになります。

地震による被害の復旧工事が終了しました

2018年6月18日に発生した大阪府北部を震源とする地震による、附属図書館の開館・サービスへの影響や主な被害・損害について、同年9月30日発行の大阪大学図書館報（52巻1号）にて報告しましたが、ようやく最後の復旧工事が終了しました。

地震後、書架から落下した約75,000冊の図書を書架に戻し、順次、サービスを再開しましたが、4館すべてで従来どおりのサービスを再開できたのは同年10月でした。

落下した図書で破損が軽微だった図書は職員が補修しましたが、貴重資料は業者による修理（290冊）、それ以外で破損が著しい図書は買い替え・修理（計270冊）を行いました。

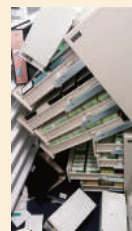
あわせて、施設・設備の修繕を行いました。例えば、総合図書館のC棟3階マイクロ資料室ではキャビネットが倒れて引き出しが散乱していましたが、キャビネットの買い替えにより、元どおり資料が利用できるようになりました。

同様に、各館において、書架や扉、手すりの破損や固定具のゆるみなどについて、買い替えや修繕により原状復帰を行いました。

2019年度に壁面の復旧工事を行いました。

地震により各館の壁面（内壁・外壁）には多数のひび割れが入り、雨漏りするようになった箇所もありましたが、2019年度に壁面の復旧工事が行われ、無事に完了しました。

復旧工事の期間中、みなさまにご迷惑をおかけしました。ご協力ありがとうございました。



地震直後のマイクロ資料キャビネット（棚の落下）



復旧後のマイクロ資料キャビネット



外壁の工事中（総合図書館）

箕面新キャンパスへの外国学図書館移転について

大阪大学附属図書館外国学図書館は箕面キャンパスの移転に伴い、令和3（2021）年4月に、大学図書館と箕面市立図書館が一体化した新たな図書館へと生まれ変わります。

外国学図書館は移転に伴う準備作業のため、令和2（2020）年度末の下記期間、臨時閉館します。移転後も、大阪大学箕面新キャンパスにおける知の拠点として、引き続き大学図書館サービスを実施してまいりますので、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

臨時閉館期間：令和3（2021）年2月13日（土）から3月31日（水）まで



図書館内観イメージ

- ※ 閉館中、外国学図書館のサービスは全面休止します。
- ※ 外国学図書館所蔵資料については、早期に長期貸出を開始し、返却期限を4月の新館開館後とします。
- ※ 開架資料については、開館期間中はご利用いただけます。
- ※ 書庫内資料については、1月21日以降に利用頻度の低い資料から部分的に梱包作業を開始する予定です。梱包済み資料は利用できなくなりますが、未梱包資料は開館期間中は利用可能です。書庫内梱包作業の詳細については、状況がわかるよう館内掲示等にてご案内します。
- ※ 詳細は図書館Webサイト等で順次ご連絡します。
<https://www.library.osaka-u.ac.jp/newlibrary2021/>

新図書館のフロアマップ

生涯学習センター	6階
生涯学習センター	5階
静寂エリア (外国学図書館蔵書)	4階
ラーニング・コモンズ等 レファレンスカウンター (外国学図書館蔵書)	3階
にぎやかエリア メインカウンター (箕面市立図書館蔵書)	2階
エントランス	
書庫 (外国学図書館蔵書)	1階

新図書館は、2階から4階への上階に行くほど、静寂度が増すようになっていきます。

2階には、「阪大薫る珈琲」でおなじみ北摂焙煎所が運営するカフェ「iroha coffee」（仮）が併設されます。

図書館での学習や研究の合間に美味しい珈琲とスイーツをお楽しみください。



図書館総合展における箕面市と本学の公・大連携の報告

2019年11月12日（火）、パシフィコ横浜にて開催された第21回図書館総合展の第8回首長フォーラム「公・大連携の新しい形-箕面市と大阪大学の挑戦」において、西尾章治郎大阪大学総長と倉田哲郎箕面市長より2016年4月締結の「大阪大学箕面キャンパスの移転に係る合意」に基づく連携について報告がありました。



フォーラムの様子

フォーラムについて、詳しくは図書館Webサイトをご覧ください。

https://www.library.osaka-u.ac.jp/news/20191126_common/

LS講習会・展示
(2019.9~2020.1)

総合図書館

講習会

- ・グロコモLSの外国語会話サブリ
(中国語)
- ・初心者のためのLaTeX講座
- ・基礎から学ぶ統計的仮説検定講習会
- ・How to search and use books
& articles in Osaka University
Library



基礎から学ぶ統計的仮説検定講習会

4図書館のラーニング・サポーター (LS) による、学ぶ人のための情報ページ

LS FORUM



研究や仕事に役立つスキルが
身に付きました！

生命科学図書館LS (2019年4月から従事)
医学系研究科 保健学専攻・M2

のうみ なおこ
野海 直子

LSをやろうと思った理由

学部生時代に個別指導のアルバイトをしていて人の勉強のサポートをするのが好きだったこと、LSになるのをきっかけに自分も図書館をもっと使いこなしたいと思ったことです。院生とはいえ研究初心者で「ちゃんと自分に教えられるのか？」と不安な思いもありましたが、同じ学生という身近な立場でお役に立てることがあればと思い、チャレンジしてみました。

LSをやってみて

LSの主な仕事は、①学習相談②推薦図書と購入図書の選定③LS講習会です。

①週2回、主に学部生の学習相談（レポート作成や文献検索の相談など）にのっています。勤務開始時の研修では、教育学の先生から、相談と指導の心構えの違いや、「分かる」と「できる」の違いを踏まえた段階的な学習支援のコツを教えていただき、とても役に立ちました。難しい相談は図書館職員さんが一緒に考えてくださり、その様子を見て私自身勉強になることもありました。関わり方を工夫して、相談者の方が解決の糸口を掴んで夢中で取り組んでいるのを見た時は、とても嬉しかったです。

②図書館の利用者に勧めたい本と、新たに購入する本のリストを作ります。館内を回りながら図書館にある本を把握したり、自分の研究分野以外も色々な本を読んでみたりして、学生さんの学習の役に立つ本を探します。普段読まない本にも出逢うことができ、視野が広がりました。本好きな人にはとても楽しい仕事だと思います。

③LS一人一人が得意な分野を活かし、講習会を企画・実施します。私は大学院の保健師教育課程に在籍しているため、看護学生向けに、地域における保健師の役割や、研究の視点を活かした公衆衛生看護活動の実践について発表しました。プレゼンの良い経験になり、また、聞いてくださった学生の方から質問や感想もいただいて、自分の学びも深まりました。



野海さんが講師をしたLS講習会のポスター

仕事にも活かしていきたい

私はLS経験を通じて、本や文献が身近になり知識の幅が広がり、教えることを通じて自分自身も学びが深まって、研究の役に立ったと感じています。また、相談支援やプレゼン・発表の経験を積めたことも貴重でした。私は修了後、保健師として地域住民の方の健康相談や健康教育に携わる機会も多くなりますが、LSでの学びを活かし、相手の方の反応をよく見て想像力を働かせながら、相手の立場に立った支援をしていきたいと思っています。

生命科学図書館

講習会

- ・大学院で学ぶ！保健師のお仕事
- ・アイデアの実体化「医療・健康」
分野におけるモノづくり
- ・R (EZR) ってどんなもの？
～超初心者向けダウンロードから
使用例まで～

LSやってよかった！

LS活動で身に付いたスキル



コミュニケーション能力が身に付きました！



理工学図書館LS（2019年4月から従事）
工学研究科 環境・エネルギー工学専攻・M1
やまだ しゅんや
山田 俊哉

LS活動について

私は理工系学生の中では比較的語学が得意な方だったため、LSデスクでの学習相談やLS講習会だけでなく、英語での図書館案内ツアーや論文検索講習会など、留学生を対象とした業務を担当することが多くありました。またLSデスクでもTOEICの学習法など、語学関係の学習相談を多く対応しました。



留学生対象の講習会「How to get articles in Osaka University Library」の様子

どのようなスキルが身に付いたか

多くのLSが講習会を通じてプレゼンテーション能力が向上したと感じていると思います。私も自分の持つ知識やノウハウを伝える講習会を経験したことで、プレゼンテーションスキルの向上を感じていますが、私の場合、それ以上に留学生への対応を通じて、コミュニケーション能力が最も伸びたと実感しています。学習相談や講習会は留学生も対象としており、こうした業務を通じて多くの留学生と交流することができました。一例として、図書館案内ツアーをきっかけに、参加した留学生の一人と意気投合し、図書館外でも交流を持つようになり、お互い親友と呼べる関係を築くことができました。

改めてコミュニケーションについて考える契機に

留学生への対応を通して最も伸びた能力として、英会話能力ではなくコミュニケーション能力をあげました。英会話能力ももちろん向上しましたが、それ以上にコミュニケーションを見直すきっかけとなったので、このことについて述べたいと思います。

留学生と会話する際、私の拙い語学力では、常に完全な意思疎通を行うというのは難しく、そのような状況でどうすれば相手も自分との会話を楽しめるか考える必要がありました。私の考えた結論は、①楽しそうに話すこと、②相手に好意的に話すこと、の2つです。言語的障壁を会話の雰囲気や埋める努力、つまり、文章（＝言語能力）では伝わらない、直接会話するからこそ感じ取れる部分（＝コミュニケーション能力）で補う工夫が重要であり、これは、外国語に限らず、日本語の会話でも同様のことが言えます。要点のまとまった言葉で伝える能力は、言語能力的には高くても、そっけなく話せばコミュニケーション能力が高いとは思われなんでしょう。

以前までの私は、初対面の相手には丁寧に、あまり親しくない相手にはやや事務的に話していた気がしますが、今は相手によらず好意的な姿勢で話すよう心掛けるようになりました。近い将来、翻訳機の発達により、言語的な障壁はほとんどなくなると言われています。そんな中、LS活動経験を通じて向上したコミュニケーション能力が役立つのではないかと期待しています。

LS講習会・展示
(2019.9～2020.1)

理工学図書館

講習会

- ・図書館初心者必見！20分でわかる論文入手法
- ・How to get articles in Osaka University Library
- ・理系学生のための語学留学のススメ
- ・『伝える』ではなく、『伝わる』文章の書き方講座
- ・1か月で800点を狙え！TOEIC学習のすゝめ
- ・リザーバーコンピューティングーIoT時代に繋がる新しい情報処理技術ー
- ・理系の英語プレゼンテーション講座
- ・工学系大学院生のリアル
- ・VRゴーグルだけじゃない！VR研究
- ・プログラミング初心者向けのPython超入門ーじゃんけんゲームを制作しよう
- ・大学院進学時に必要な3つの心構え



VRゴーグルだけじゃない！VR研究

外国学図書館

講習会

- ・卒論Second Opinionー卒論の相談は、1に教員、2にるくすー
- ・レポートのさぼーとー個別相談にミニレクチャーを添えてー

図書展示

- ・哀悼 中村哲医師



NEWS☆図書館からのお知らせ（2019.9～2020.1）

イベント開催報告

◆大阪大学附属図書館イベント「Christmas Electone Concert 2019」（総合・12月）

2019年12月17日（火）、大阪大学エレクトーンサークルHANONによるコンサートが、総合図書館6F図書館ホールで、開催されました。参加者は66名でした。楽曲は「All I Want for Christmas is You」を初めとして合計14曲です。アンケートでは、「気持ちのこもった演奏で感動しました。」「学内でもっと定期的に、演奏がきけたらいいなと思いました。」「などの声をいただきました。また、楽器紹介として、参加者による演奏体験もあり、奏者と参加者との距離感が近いイベントとなりました。



▲ コンサート風景（総合図）

◆謎解きゲーム「図書館からの脱出2」（理工学・10～11月）

理工学図書館内を巡りつつ、出題される問題を順番に解くことで、図書館の利用について理解を深めることができるイベントです。2019年度春夏学期に引き続き、開催しました。

◆ノンフィクション作家 高野秀行氏講演会「言語オタクのちょっとクレイジーな探検生活」（外国学・12月）

2019年12月4日（水）、『辺境メシ』、『謎の独立国家ソマリランド』など、外国での探検生活を記した著作でおなじみの高野氏による講演が、外国学図書館4階AVホールで開催されました。

図書展示の記録

◆生命科学図書館

- ・ぐっすり眠りたい！～ゆめゆめ睡眠疎かにすることなかれ～（1～2月）

◆理工学図書館

- ・もっと中国を知るために～建国70周年～（9～11月）
- ・司馬遼太郎講演会コラボ展示（10月）
- ・ノーベル賞の世界2019（10～11月）
- ・起業～偉大な先輩たちの経験から学ぼう～（12～1月）
- ・ちゃんとごはん食べてる？～食べることの大切さを知るための17冊～（1～2月）

◆外国学図書館

- ・第20回専攻語図書リレー展示「アラビア語」（10月）
- ・第66回14冊の本棚「戦国のサムライ 14冊+α」（司馬遼太郎講演会コラボ企画）（10月）
- ・第67回14冊の本棚「映画字幕の舞台裏 14冊」（講座コラボ企画）（10～11月）
- ・第68回14冊の本棚「高野秀行氏を知る14冊+α」（講演会コラボ企画）（11～12月）
- ・第21回専攻語図書リレー展示「ウルドゥー語」（1～2月）

講習会・セミナーの記録

◆データベース利用講習会

- 11/14 新聞記事検索ツール Nexis Uni [総合・外国学]
- 11/21 日経テレコン [総合・外国学]
- 1/30 PubMed [生命]

◆文献管理ツール利用講習会

- 11/27 Mendeley [総合・理工学]
- 11/28 EndNote basic [総合・理工学]

◆セミナー

- 9/3 学習スペースの最先端-スペースの活用・評価・改善-（全学教育推進機構教育学習支援部との共催）
- 1/24 学術論文発表を取り巻く最新動向：オープンアクセスの現在（経営企画オフィス研究支援部門・研究推進本部との共催）

◆総合・理工学共通

- ・最速最短！大学院生・研究者のためのフルテキスト入手法（10月）
- ・工学系の論文の探し方入門（10～11月）

◆総合図書館

- ・としょかん秋の卒論まつり（10月）
- ・明治～昭和期の日本の雑誌・新聞記事の探し方（11月）

◆外国学図書館

- ・映画字幕翻訳講座2019 in 箕面キャンパス（言語文化研究科、大阪映像文化振興事業実行委員会との共催）（10月）
- ・外国学図書館・国立国会図書館合同 文献探索ガイダンス（10～11月）